



東中だより

夢を追え、自らを高めよ
—学べ・磨け・輝け—

7月号

さいたま市立東浦和中学校

〒336-0932 さいたま市緑区中尾 1207-1

☎ 048-873-4141

令和8年7月1日 発行

「国際ボランティア年！～ボランティアの意義を考えよう！」 校長 たかく まさゆき 高久 正行

今日から7月！令和8年の折り返しであり、1学期のまとめの月となりました。5月末から開催された「さいたま市中学校総合体育大会」では、サッカー部・バレーボール部・剣道男子団体が3位を獲得したのをはじめ、その他の部活動でも団体や個人で県大会出場を果たすなど、勝敗にかかわらず東中生の目覚ましい活躍を目にすることができました。また、生徒会が中心に取り組んだ「いじめ撲滅運動」においても、動画視聴をもとにした意見交換、各クラスのスローガン作成、ピンクリボン活動など、誰もが安心して過ごせる学校づくりに向け、学校全体でいじめについて考える機会を設けられました。3年生は3年間の総決算となる修学旅行を実施し、京都・奈良の寺社仏閣や伝統文化に触れるなど、大変有意義な3日間を過ごすことができましたと感じています。特に印象に残ったのが、1日目に行った「止観体験(座禅)」です。正しい姿勢や呼吸のもと、自分自身に向き合う体験を行いました。短い時間ではありましたが、自ら、警策を志願する生徒もおり、大変貴重な機会になりました。



さて、先日、報道で、今年が「国際ボランティア年」であるということを知りました。

「国際ボランティア年」とは？

2026年は、国連が定めた「持続可能な開発のためのボランティア国際年」です。これは25年ぶりの特別な年で、「SDGs(持続可能な開発目標)を達成するために、みんなのボランティアの力を合わせよう！」という世界共通の呼びかけです。

制定の背景として、SDGs(持続可能な開発目標)の達成期限(2030年)まであと4年に迫っていること、環境問題、格差、相次ぐ災害や紛争など、地球規模の課題は政府の力だけで解決できないということ、「最大の原動力」として、市民一人ひとりのボランティア精神に再びスポットライトを当てることがあるようです。

加えて、国連は、世界中の政府や地域社会に対し、

- 貢献を適切に評価する
- 誰もが参加できる環境づくり
- 多様な形を認める
- 未来への投資

のような取組を呼びかけています。

これは、目立たない活動も認めること、若者から高齢者までが安全かつ気軽に参加できること、近所の手助けのような小さな活動もすべて大切にすること、次の世代の成長やコミュニティの強化につなげることが必要だということを意味しています。

本校では、一昨年より、東中生による「地域貢献ボランティア」を始め、今年度もすでに生徒向けの募集を行っているところです。ボランティアの語源はラテン語の「自発性(自ら進んでやること)」とあるように、決して「特別なこと」ではありません。身近な誰かを笑顔にしたいという小さな思いが、実は世界を、そして地域を変える大きな原動力になります。生徒の参加に際し、保護者・地域の皆様には温かい目で見守っていただければ幸いです。6月に入り、早くも台風が日本列島に上陸したり、地震が多発したりと、自然災害に対する備えがより一層求められているように感じます。ボランティア活動を通し、地域コミュニティの絆が一段と深まっていくことを期待せずにはられません。

「第1回学校運営協議会」を開催しました！

6月29日(月)に、第1回学校運営協議会を開催し、熟議の中で、「今後の東中の方向性」について委員の皆様からご意見をいただきました。生徒の意見や思いも取り上げながら、今後、具体的な方策を考えていきたいと考えております。議事録等は、本校HPに掲載する予定ですので、ぜひご覧ください。

